2024 年 3 月
大正大学地域構想研究所・BSR 推進センター

第５回「寺院における新型コロナウイルスによる影響とその対応に関する調査」単純集計の結果報告

このたびは弊センターによる第 5 回「寺院における新型コロナウイルスによる影響とその対応に関する調査」にご協力いただき、誠にありがとうございました。おかげさまで 270 件の回答をいただくことができました。

2020 年初頭の新型コロナウイルスの感染拡大から、まもなく丸 4 年が経とうとしています。この感染症は昨年 5 月に 2 類感染症から 5 類感染症へ移行し、私たちの生活も以前のかたちに戻りつつあります。この数年のうちに、皆様の法務・寺院運営には様々な影響が生じ、それに対して新たな方法を模索したり、休止を余儀なくされたりと、大変なご苦労がおありだったことと拝察します。そして、現在では、以前の形式で執り行えるようになったご法務もあるのではないかと思います。

弊センターでは「寺院における新型コロナウイルスによる影響とその対応に関する調査」を 2020 年 5 月・12 月、2021 年 12 月、2022 年 12 月の計 4 回実施し、多くの方に回答をいただきました。その結果については、ホームページに掲載しております（下記参照）。

第 1 回調査結果　https://chikouken.org/topics/news/10879/
第 2 回調査結果　https://chikouken.org/topics/news/11610/
第 3 回調査結果　https://chikouken.org/topics/news/13176/
第 4 回調査結果　https://chikouken.org/activity/activity_cat06/14218/

今回の調査は、新型コロナウイルス感染拡大以後の葬送文化の変化を把握するとともに、寺院全体で今後どうあるべきかを検討していきたいと考えて実施いたしました。その目的のもと、現在の葬送儀礼の状況、また、この一年間での定期法要の実施状況等についてお尋ねするほか、感染拡大から 4 年が経った現在、現場で感じている今後の見込みについてもおうかがいしました。

本報告では、回答を単純集計した結果のほか、自由記述を掲載しています。

自由記述に関しては、本調査への期待や感謝の言葉などを除き、すべて掲載させていただきました。

なお、2024 年 12 月に第 6 回の調査を実施予定です。もちろん回答は任意ですが、その際はご協力いただければ幸いです。よろしくお願い申し上げます。

目次

調査概要 4
回答者属性 4
（１）葬儀に関して、新型コロナウイルス感染拡大以前と比較して現在はどのような状況ですか。 6
（２）葬儀に関して、昨年（2022 年）と比べて、変化を感じられることがありましたら、自由にお書きください。 6
（３）年回法要に関して、新型コロナウイルス感染拡大以前と比較して現在はどのような状況ですか。 8
（４）年回法要に関して、昨年（2022 年）と比べて、変化を感じられることがありましたら、自由にお書きください。 9
（５）月参りの件数は、新型コロナウイルス感染拡大以前と比較して、現在はどのような状況ですか。 11
（６）月参りをおこなっている方にお尋ねします。現在、月参りをどのようにおこなっていますか。 12
（７）（６）で「形を変えておこなっている」を選択した方にお尋ねします。具体的にどのようにおこなっていますか。 12
（８）2023 年のお盆参り（棚経）はどのようにおこないましたか。 12
（９）（８）で「形を変えておこなった」を選択した方にお尋ねします。具体的にどのようにおこないましたか。 13
（10）今年（2023 年）は、檀家・門徒・信徒を寺院に集めて行う定期法要（彼岸法要や施餓鬼法要、報恩講など）をどのようにおこないましたか。 14
（11）（10）で「形を変えておこなった」を選択した方にお尋ねします。具体的にどのようにおこないましたか。 14
（12）2023 年 12 月現在、写経会・法話会・坐禅会・念仏講等の定例行事をどのようにおこなっていますか。 15
（13）（12）で「形を変えておこなっている」を選択した方にお尋ねします。具体的にどのようにおこなっていますか。 16
（14）2023 年 12 月現在、毎年行う落語会やコンサートなどのイベントをどのようにおこなっていますか。 16
（15）（14）で「形を変えておこなっている」を選択した方にお尋ねします。具体的にどのようにおこなっていますか。 17
（16）所属する寺院での一般的な葬儀の流れについて、あてはまるものを選んでください。 17

（17）新型コロナウイルスが５類に移行してから（2023 年５月８日以降)、新型コロナウイルス感染症でお亡くなりになった方の葬儀式（戒名・法号授与、引導作法など）をつとめましたか。 18
（18）（17）で「はい」を選択された方にお尋ねします。 新型コロナウイルス感染症でお亡くなりになった方の葬儀と火葬はどのような流れでおこないましたか。 18
（19） 新型コロナウイルスが５類に移行してから（2023 年５月８日以降）、檀家・門徒・信徒の方から、年回法要についてどのような相談を受けていますか。 18
（20） 新型コロナウイルスが５類に移行してから（2023 年５月８日以降)、 檀家・門徒・信徒の方から、生活上のどのような相談を受けていますか。 19
（21）コロナ禍を経た現在、今後の法務や寺院運営に関する見通しについてどう考えますか。 20
（22）寺院からの情報発信の手段として以下のものを使用していますか。 21
（23）2023 年 12 月現在、寺院として行っていることはありますか。 22
（24）ご意見やご感想等ございましたら、自由にお書きください。 23

第５回「寺院における新型コロナウイルスによる影響とその対応に関する調査」単純集計の結果報告

調査概要

・方法：インターネットによる WEB アンケート
　アンケートページアドレス：https://forms.gle/UUk258KJiABkYF1UA
・調査期間：2023 年 12 月 6 日（水）※ ～12 月 27 日（水）
　（※大正大学地域構想研究所ホームページへの掲載、メールでの調査協力送付の日）
・有効回答数：270 件
　274 件の回答のうち、メールアドレスの重複が 4 件（重複回数はすべて 2 回ずつ）あった。
　それぞれ回答日時の新しいものを採用し、古いものを削除した。

回答者属性

・所属宗派

宗派	回答数
浄土宗（各派）	123
浄土真宗（各派）	51
真言系（各派）	41
曹洞宗	17
日蓮宗	13
天台宗	8
時宗	5
黄檗宗	3
臨済宗（各派）	3
融通念仏宗	2
その他	4
合計	**270**

・寺院の所在地

都道府県	回答数	都道府県	回答数	都道府県	回答数	都道府県	回答数
北海道	7	東京都	53	滋賀県	7	香川県	5
青森県	5	神奈川県	14	京都府	9	愛媛県	1
岩手県	2	新潟県	3	大阪府	15	高知県	0
宮城県	2	富山県	4	兵庫県	8	福岡県	4
秋田県	0	石川県	3	奈良県	3	佐賀県	4
山形県	4	福井県	0	和歌山県	1	長崎県	0
福島県	6	山梨県	2	鳥取県	2	熊本県	1
茨城県	3	長野県	7	島根県	3	大分県	4
栃木県	1	岐阜県	4	岡山県	0	宮崎県	0
群馬県	4	静岡県	24	広島県	5	鹿児島県	0
埼玉県	18	愛知県	14	山口県	0	沖縄県	0
千葉県	14	三重県	4	徳島県	0	**合計**	**270**

・寺院所在地の自治体の人口規模

人口規模	回答数
50万人以上	81
30万人以上 50万人未満	27
10万人以上 30万人未満	58
5万人以上 10万人未満	33
3万人以上 5万人未満	24
3万人未満	38
わからない（答えたくない）	9
合計	**270**

・檀家等の数

檀家等の数	回答数
500戸以上	44
400戸以上 500戸未満	20
300戸以上 400戸未満	39
200戸以上 300戸未満	53
100戸以上 200戸未満	71
50戸以上 100戸未満	24
50戸未満	18
わからない	1
合計	**270**

・立場

立場	回答数
住職	174
副住職	73
寺庭（坊守）	13
その他	10
合計	**270**

・年齢

年代	回答数
20代	10
30代	31
40代	103
50代	82
60代	33
70代	11
合計	**270**

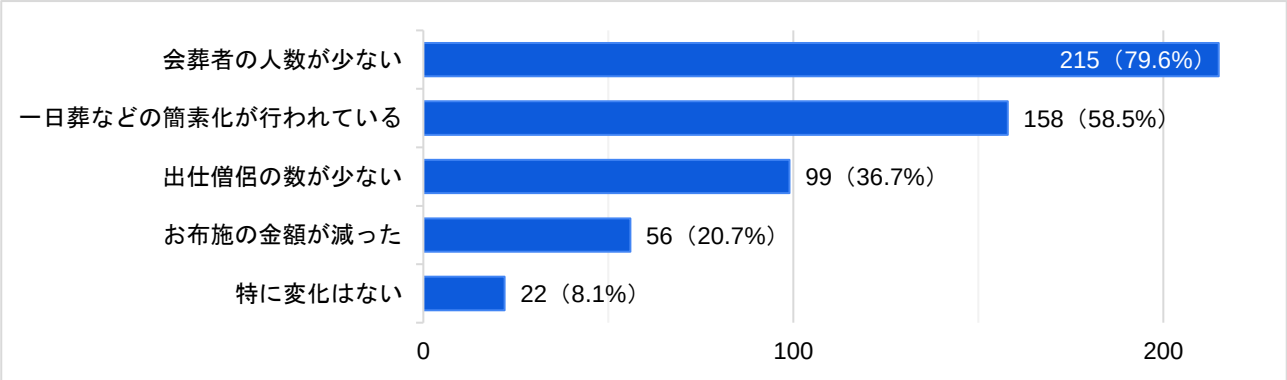
・性別

性別	回答数
男性	242
女性	26
その他	2
合計	**270**

・調査協力回数

過去の協力の有無	回答数
協力したことがある	212
今回がはじめて	40
わからない	18
合計	**270**

（１）葬儀に関して、新型コロナウイルス感染拡大以前と比較して現在はどのような状況ですか。（複数回答可）



（２）葬儀に関して、昨年（2022 年）と比べて、変化を感じられることがありましたら、自由にお書きください。

いただいた回答について、項目ごとに分類して件数を示したうえで、数件ずつご紹介します。なお、ひとつの回答内に複数項目にまたがる記述があった場合は、各項目でそれぞれ１件としています。

◇会食の再開（60 件）

・ご親族のみではありますが、会食なさるお宅が増えて来ました。また、ご近所の方のお焼香も少しずつ増えて来たように思います。
・葬儀後、会食を伴う御斎が開催されるようになってきた
・依然として通夜振る舞いは無いが、参加者が限定される仏立て（精進落とし）は行う機会が増えた。
・会食は徐々に戻りつつあります。各家庭の判断で、慎重な家と気にしない家と分かれています。
・会食を伴うようになり、お参りさんとも声を出してお勤めできるようになった。

◇会葬者数の回復・増加（59 件）

・コロナ以前と同様の、親族を多く招いての葬儀が行われるようになった。
・家族・親族を中心に行う形は同じだが、会葬者の数が少しずつ増えてきた。
・家族葬と言いながら多くの人が集まるようになってきている。それでも 20 人くらい。
・一般の参列者が来られるようになった
・家族葬ばかりだったのが通常に戻ってきたのを感じる。

◇葬送儀礼の簡素化（33 件）

「葬送儀礼の簡素化」と分類できる 33 件の回答があり、その中で「一日葬の定着」「家族葬の定着」には一定数の回答があったため、下位項目として立て、それらに分類されない回答を「簡素化・簡略化の進展」とした。

◆一日葬の定着（13 件）

・都内の葬儀は依然として一日葬中心だが千葉や神奈川は通夜ありが多くなってきた

・コロナ禍で特に葬儀の変化はなかったが、だんだんと一日葬の希望が増えてきた。
・お通夜を勤める件数がさらに減った。
・お通夜をやる場合もあるが一日葬が定着した感じがある。お布施額の減少傾向にある
・一日葬が明らかに増えてきました。

◆家族葬の定着（11 件）

・家族葬が増え、一般葬でも会葬の仕方が多様化した（焼香記帳のみ or 会葬）
・ほぼ少人数の家族葬になっている
・家族葬など少人数葬儀が定着してきた。
・家族葬という形式を続けている家庭が多く、全てが今までのような形式の葬儀とはなっていない。
・コロナをきっかけに親族のみで行われることが増えた状況のまま。

◆簡素化・簡略化の進展（9 件）

・簡素化が進んできた。
・簡略化が図られている。
・まだコロナ禍中と同様。それが定着してしまった様な感がある。（簡素化、簡略化）
・コロナ以前は北海道では見られなかった、通夜や葬儀に焼香だけして、法要には参加しない形式があたりまえのようになってしまった。
・枕経が減って、式中初七日が増えてきた

◇通夜の回復・増加（24 件）

・通夜を行う機会は昨年よりは増えたが、戻ったというほどではない
・通夜も行うようになってきたが、会食はまだ行っていない方が多い。
・通夜の実施については、コロナ以前に戻ったが、参列者の人数は戻ったとは言い切れない。
・一日葬が減って通夜も行われるようになった。
・コロナ禍では一日葬が主流となったが、現在はコロナ禍以前のように通夜を勤めることがほとんどである。他方、コロナ禍によって会葬者が減ったが、その傾向は現在も変わらない。（少ないままである）

◇コロナ禍前への回帰（17 件）

・コロナ前の状況に戻ってきている。
・やや規模は縮小されている感じはありますが、コロナ前の様式に戻っている気がします。
・通常通りの還骨・初七日法要を行うように戻ってきた。
・葬儀併修の初七日から火葬後の初七日がまだまだ数は少ないが増えてきた。
・昨年までは一般会葬者とご遺族側でお参りの時間帯を分けていたが、今は元通りになってきています。

◇感染対策の緩和（16 件）

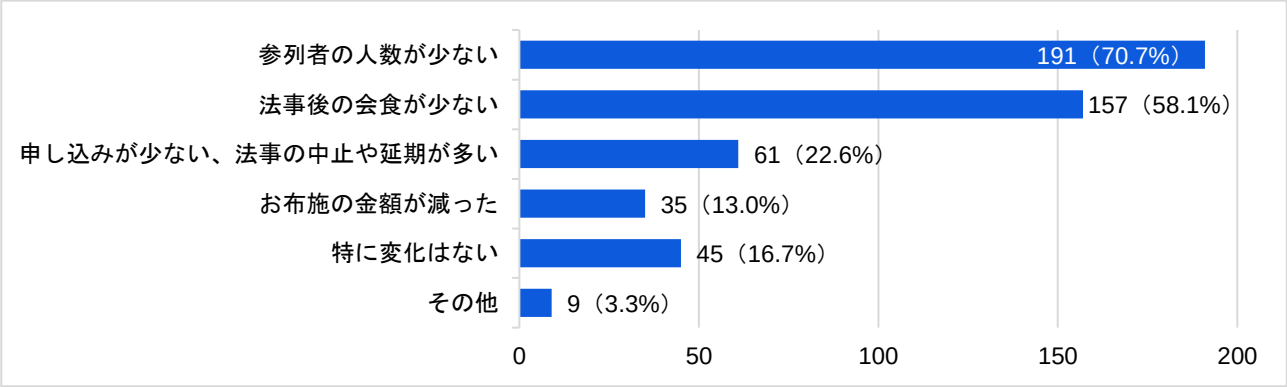
・昨年まではマスクは必携であったが、2023 年は葬儀場や火葬場にマスクなしで堂々と出入りできるようになった。
・会食については 2022 年もあったので、昨年と比べて特に変化は感じない。ただし、アクリルボード等の過剰な感染対策は減り、遺族や会葬者と話がしやすくなったと感じる。

・マスク、手の消毒、換気等の徹底が緩くなったと感じる
・集まる方々が、マスクを着用されない方も見受けられる。
・マスク姿が少なくなった。こちらもマスクを外して読経しやすくなった。

◇二極化（5 件）
・普段お付き合いのある檀信徒の方は親族のみで通夜葬儀が定番に。葬儀社から紹介の方はごく近しい親族のみで一日葬が定番に。
・簡素化が続いている一方、以前の葬儀（会葬者数、会食等）が戻りつつあるように思う。
・希望するご葬家では、お通夜で会食し、大勢でお清め、語らいの時間が持てるようになった。一方で、簡素化を望むご葬家もおられる。
・元に戻そうとする方と簡素に行う方の二極化が進んできた
・通夜や会食が再開されてきたが、同率で一日葬や骨葬も増え、両極化している感じがする。

◇その他（11 件）
・式とお悔やみの時間を分けた時差式の通夜が定着しつつある。
・コロナ中でも通夜・葬儀・繰上げ初七日のパターンは変化しなかったが、会館葬の場合の葬儀の前後に会葬者が焼香だけをする「流れ焼香」が定着した。宅葬の場合の会葬者数が増えた。
・お通夜葬儀とも弁当持ち帰り
・先に親族のみの二部制の通夜の数が減った。
・亡くなる人が多くなった。超過死亡？

（３）年回法要に関して、新型コロナウイルス感染拡大以前と比較して現在はどのような状況ですか。（複数回答可）



その他（９件）
・法要はしないで卒塔婆のみの供養が増えた
・塔婆が不要という方が増えた
・以前に戻りつつある。
・ほぼ、元にもどった感がする。

・参列者の人数が少なくなったとは感じるが、少子高齢化の影響とコロナの影響か見分けがつきづらい。法事自体は増えてきた印象があるが、ここ数年で団塊の世代が７５歳以上になったことの方が関係しているような気がする。
・参列者は増えた。
・平日が増えた。
・諸物価高騰の割にはお布施の額は減っていないと感じた
・変化があるとすれば、新型コロナウイルス感染症によるところではないように思います。

（４）年回法要に関して、昨年（2022 年）と比べて、変化を感じられることがありましたら、自由にお書きください。

いただいた回答について、項目ごとに分類して件数を示したうえで、数件ずつご紹介します。なお、ひとつの回答内に複数項目にまたがる記述があった場合は、各項目でそれぞれ１件としています。

◇会食の再開（61 件）
・自宅で法要を勤めて仕出しを注文して会食するなど、昔ながらの形に戻ってきた。
・会食に誘われる機会が増えてきた
・法要後の御斎を開催するお家もあれば、お弁当だけとするお家もあります。御斎が復活してきた傾向がみられた時期は夏以降であったかもしれません。
・昨年は会食割合１割程度、今年は５割以上になった。
・法要後に、会食をするお檀家さんが増えてきた。家族や親戚同士の久々の再会の場として楽しそうに過ごされているお檀家さんが多い。

◇参列者数の回復・増加（50 件）
・参列者に子供や年配者の参列が増えた
・昨年と比べると参列者の数が増加したように思います。
・参列人数が増えて、コロナ禍前に戻りつつあります。
・遠方の親戚が増えてきて、３世代ないし４世代での参列が増えた。
・お参りされる人数は元にもどりつつあります。

◇参列者数の減少・固定化（16 件）
・参列者がごく身内ばかりで元に戻ってこない。
・参列者は少ないまま定着している。
・会食も多少はでてきましたが、まだまだ参列者も含めてあまり増えてはありません。
・地域の方を案内しなくなってきた。家族だけで拝んで会食なく終わり
・コロナ前と比べて近親者や近い親戚だけの法事が増えた。

◇法事件数の回復・増加（12 件）
・年回法要の延期がなくなり、延期していた法要を今年になって行われることが多かった。

・少しずつですが、法事が増えて来ました。人数は相変わらず少人数ですが、たまに大勢で会食なさる方も出てきました。
・昨年まではコロナが怖く法要を見合わせる方がいたが、今年になってから件数としては徐々に回復傾向。まだコロナ前と比べると 1～2 割少ないように思える。
・法事の申込件数が増えた。
・県外お檀家様からコロナ禍で勤められなかった法要を執り行いたいとの申し出が増えた。

◇会食無し（10 件）
・参列は 10 名以下が多く、会食は減りました。特に寺での会食はほとんどありません。
・参列者が激減し弁当持ち帰りが多い
・法事の参列者は増えてきているようだが、会食が弁当持ち帰りになったり、会食なしのところも半数ある。
・会食が無くなった

◇感染対策の緩和（7 件）
・参列者がマスクをしなくなってきた
・マスク着用されない方も増えている。

◇コロナ禍前への回帰（参列者・会食など具体的記載なし）（7 件）
・コロナ前とあまり変わらなくなりました。
・コロナ前の状況に戻ってきている

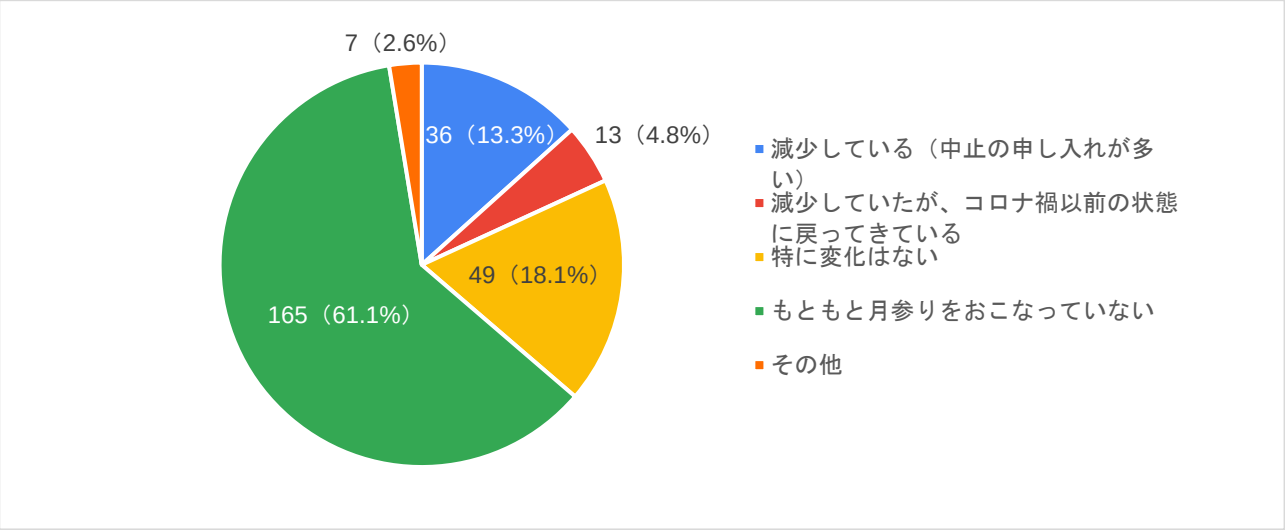
◇法事件数の減少（6 件）
・年回法要がより減少傾向にある
・コロナ蔓延中は法事も代理参拝を行なっていました。その流れからか、今も塔婆供養のみの申し込みが多く、実際に参詣しての法事は減ったように感じます。

◇二極化（6 件）
・多少は会葬者が増えたが、全体的には小規模で良いという考えが主流になっている。
・コロナ前と同様に親族がおおくあつまる法事が戻ってきている。一方で親族参列がゼロでひとりもしくはふたりの施主のみ参列による法要も目立ってきている。

◇その他（25 件）
・年忌の合同が増えた。
・参列者は多くなってきたが、二霊分纏めて行うパターンも増えた
・ホテルや会館を使用しての法事が増えた。
・会食が無い分、時間的には朝夕にも配分される・できるようになった。
・自宅を避けて寺院での実施の希望が増えた。親戚を呼ばずに少人数で済ませることが定着したせいか、

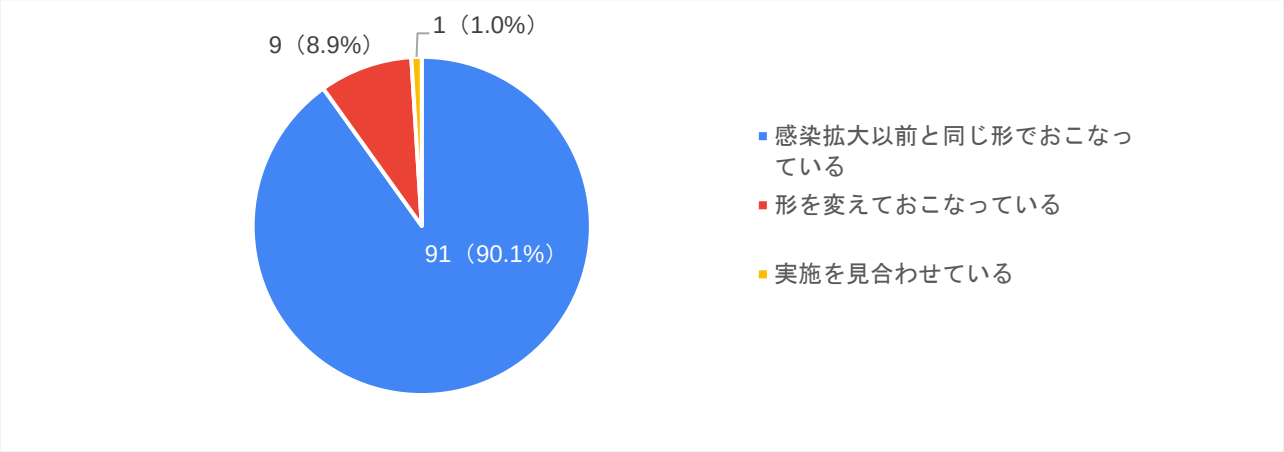
予定を合わせやすい土日にこだわらず平日に行う法要が増えた。
・実際の参列者は少なくても、オンラインで参加する人もいて、世の中のオンライン化（テレワーク、オンライン授業）の流れが定着してきた感じがする。会食も普通にするように戻ってきたし、社会でのオンライン飲み会の定着で、会食もオンライン参加者がいるようになった。
・簡単に終わらせてほしいと依頼が増えている。
・所要時間を短くとの要望が増えた

（５）月参りの件数は、新型コロナウイルス感染拡大以前と比較して、現在はどのような状況ですか。

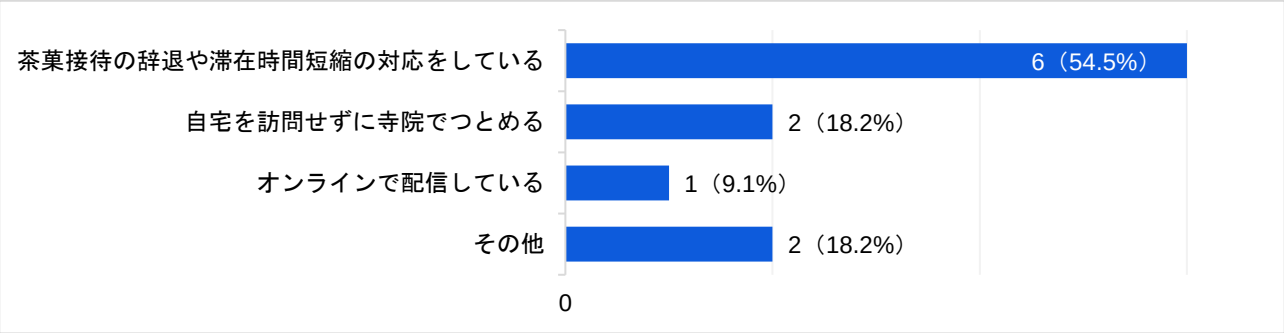


その他（７件）
・月参り自体がなくなってしまった。以前は行っていた。
・コロナより住職家族の事情で断続的な実施となり回答しにくいです。
・コロナでかなり減少したが、新規に申込みが何件かこの一年にあった。
・祥月のみですが依頼が増えています。高齢者を中心に外に出る機会が減った、会合が減った、話す機会が減った方からのご依頼が特に多いです。塔婆を持参する機会も増えました。(年回、お家の方＝お一人暮らしなど少人数、交通手段困難、移動（足元）困難
・減少している。コロナに関係なく、施設入居などの要因で断りが多くなっています。
・コロナ禍を機に止められ復活する気配が無い
・変化は、新型コロナウイルス感染症によるところではないように思います。

（６）月参りをおこなっている方にお尋ねします。現在、月参りをどのようにおこなっていますか。



（７）（６）で「形を変えておこなっている」を選択した方にお尋ねします。具体的にどのようにおこなっていますか。（複数回答可）

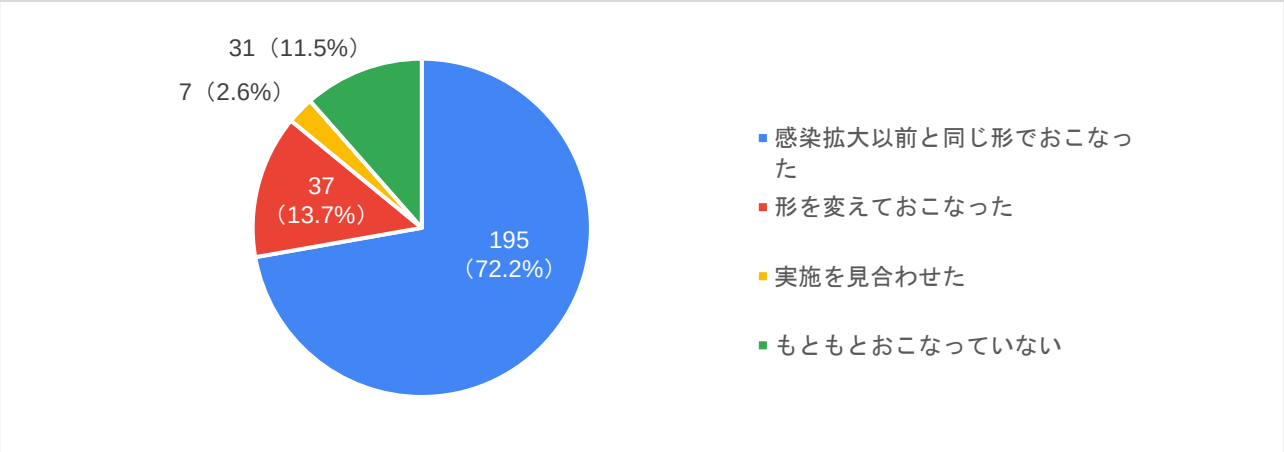


その他（２件）

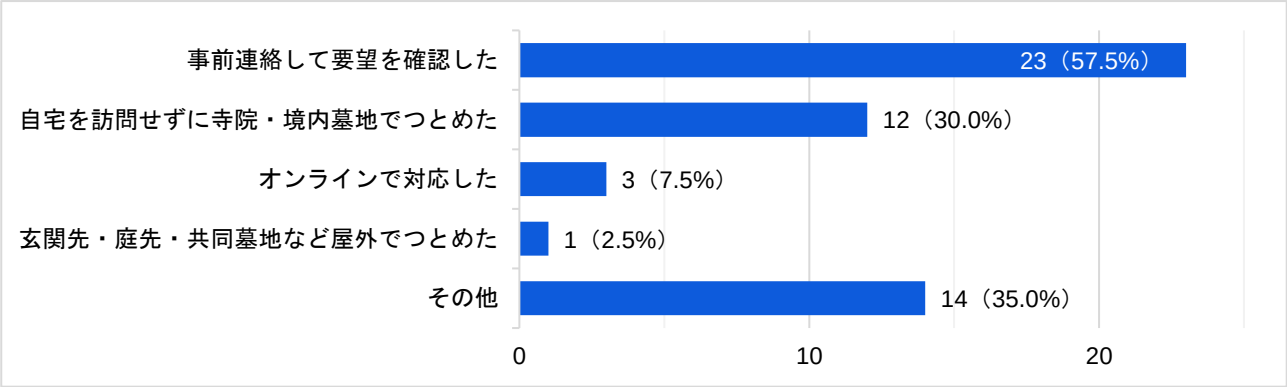
・お参りの回数を整理してもらい、訪問回数が減りました。ただし主に住職家族の事情です。

・マスクをしたまま

（８）2023 年のお盆参り（棚経）はどのようにおこないましたか。



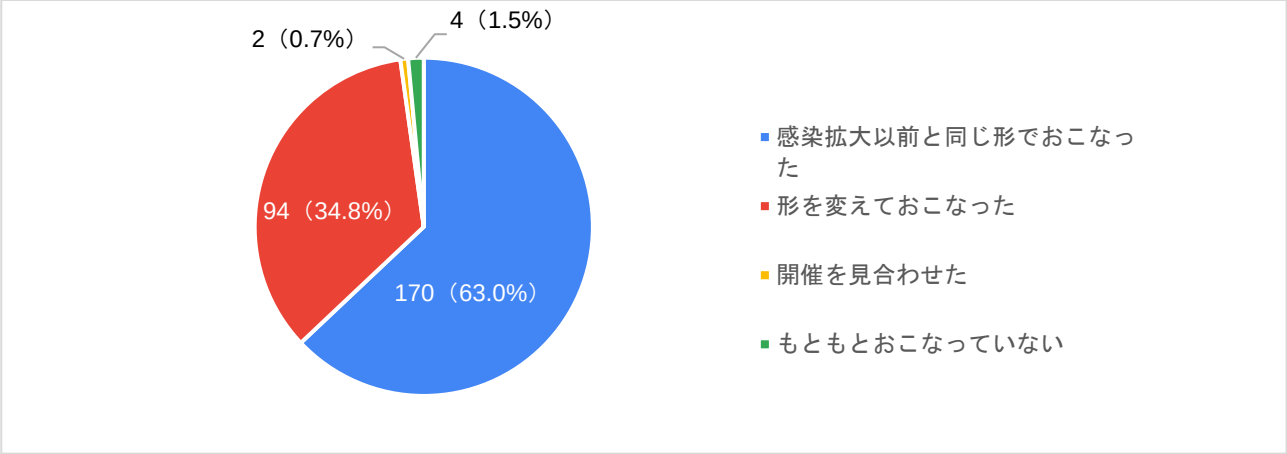
（９）（８）で「形を変えておこなった」を選択した方にお尋ねします。具体的にどのようにおこないましたか。（複数回答可）



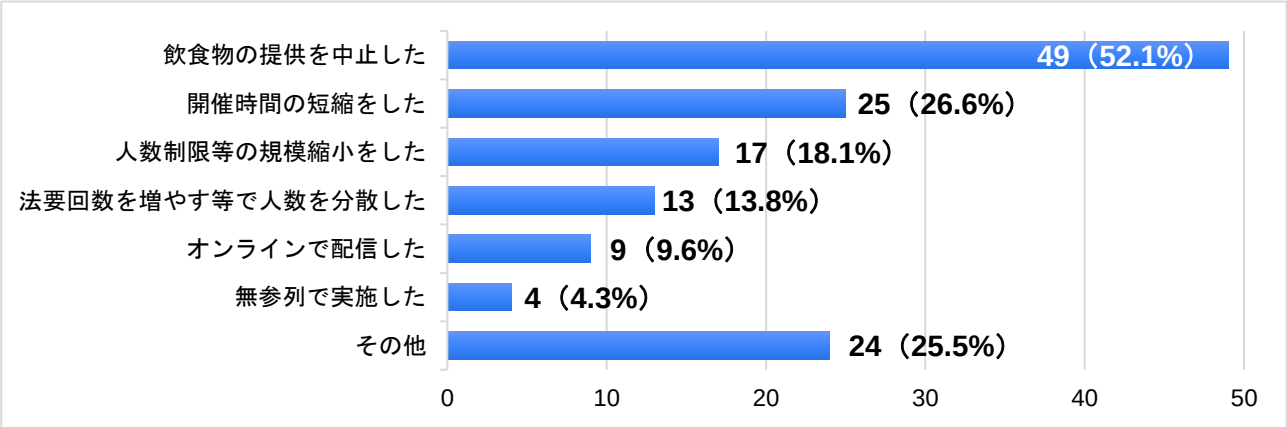
その他（14 件）

・必ずマスクをするようにした。
・月参りと同じく、マスク、茶菓接待辞退
・自宅訪問スタイルでしたが、寺の本堂で新盆合同供養法要としてまとめて行うようにしました。空き家となった故人の家をお盆の棚参りのために掃除したりするのが面倒という方もいたりして、寺で行うスタイルにしたところ好評でした。もちろん、自宅の精霊棚での棚参りのご希望があれば伺っております。
・お檀家様には、自宅での読経、本堂での読経を選択できるようにし、一日だけ合同盆供養の日を設け、本堂で 30 分おきに盆供養を勤めた。
・棚経は再開したが、コロナ前実施していなかった合同法要を併修するようにした。
・近所と総代さんのみ行なった
・基本はご自宅で執り行った。
・寺院でのご供養に加え、ご希望のお宅にはお邪魔した。
・規模を縮小しておこなった。
・寺への参詣は変わらないのですが、回数を増やして、１回の人数を減らした。
・宅参り、本堂法要、オンラインのハイブリッド
・お参り場所をこれまで「ご自宅」一択から「本堂またはご自宅」にして選択できる様にした
・自宅訪問 or 本堂で合同法要 or オンラインと選択できるようにした
・家族に感染者が出たため、今まで通りにはできなかった。日程をお盆以降に変更依頼等をした。

（10）今年（2023 年）は、檀家・門徒・信徒を寺院に集めて行う定期法要（彼岸法要や施餓鬼法要、報恩講など）をどのようにおこないましたか。



（11）（10）で「形を変えておこなった」を選択した方にお尋ねします。具体的にどのようにおこないましたか。（複数回答可）

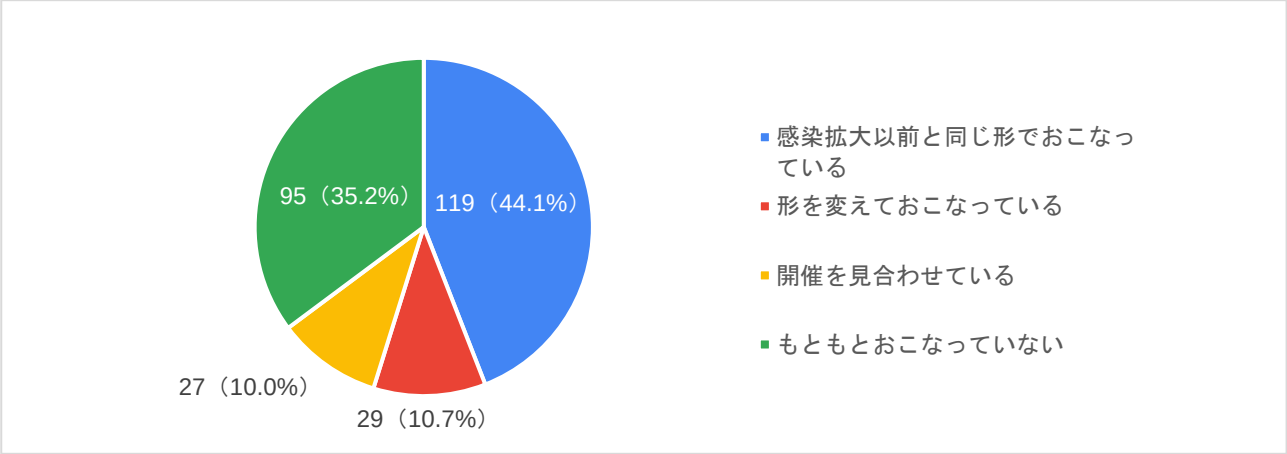


その他（24 件）

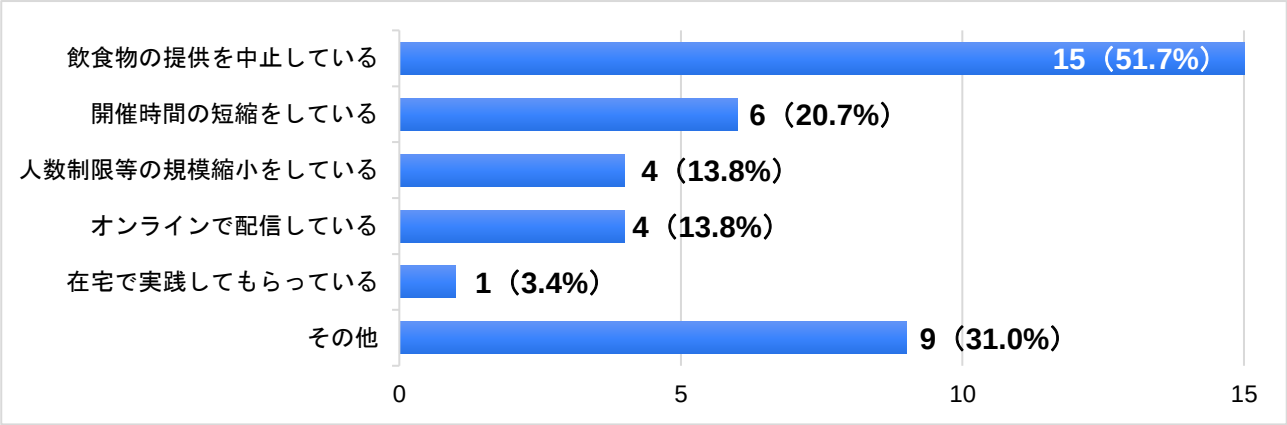
・マスク着用
・コロナ禍だからこそ感染対策し通常通り執り行った。
・お焼香を法要内ではなく事前焼香とした。玄関ホールに焼香台を設けて混雑を緩和した。
・随喜なしとし住職のみで勤めた
・部内の随喜は中止
・出僧を減らして行いました。
・外部からの布教師は呼ばず、すべて自前で行った。
・靴の脱着をなくし土足のまま堂内にはいってもらう。一方通行による堂内通り抜け。
・簡素化した
・予約枠を設けた
・地域の方に設営などのお手伝いを頼まなくした
・参加自由を強調した。

・春彼岸は住職法話なので二座に分けオンライン中継、秋彼岸は外部講師につき一座オンライン中継とした。
・報恩講法要のお初夜とお晨朝の案内をしていない
・参列各家で参加人数の自主減数をされていたようです。
・開催時間を変更し、省力化した。
・御斎を弁当に変えた。日程を午前中に集中して勤めた。
・おときを持ち帰り弁当とした
・飲食物を持ち帰りとした。
・オンラインと実際のお参りと両方おこないました。実際のお参りはコロナ以前はイスを用意して座ってもらっていたが、イスを用意せず、ご焼香をしていただいたらすぐお帰りいただくようにしました。
・随時回向にした
・塔婆回向を先んじて行い、檀信徒の皆様が待機しなければ行けない時間を短縮した。
・法要回数を増やした事に伴いゲストの講師の法話を初日に録画して２日目以降は録画の再生で対応した
・無参列から参列へ緩和した。

（12）2023 年 12 月現在、写経会・法話会・坐禅会・念仏講等の定例行事をどのようにおこなっていますか。

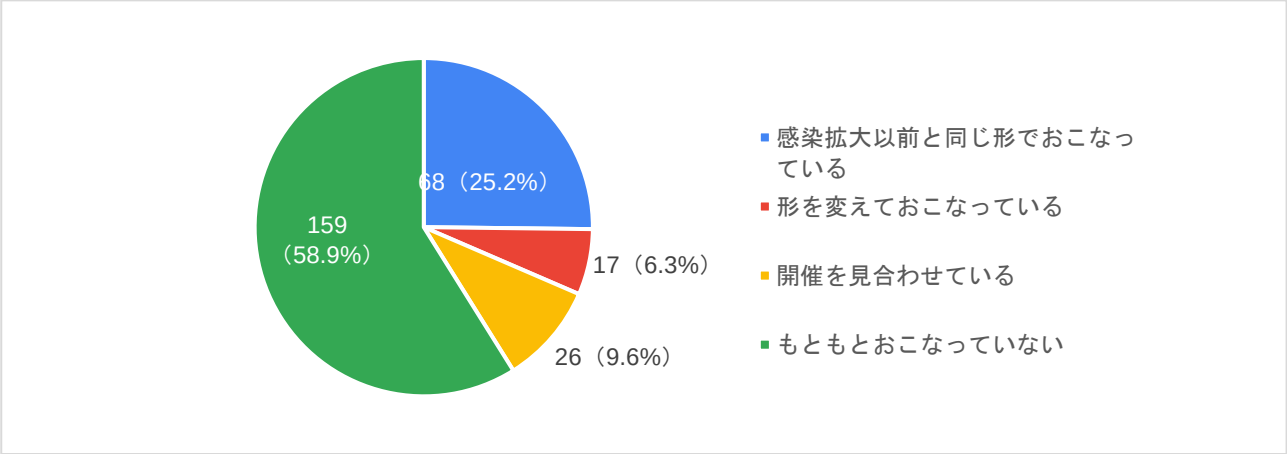


（13）（12）で「形を変えておこなっている」を選択した方にお尋ねします。具体的にどのようにおこなっていますか。（複数回答可）

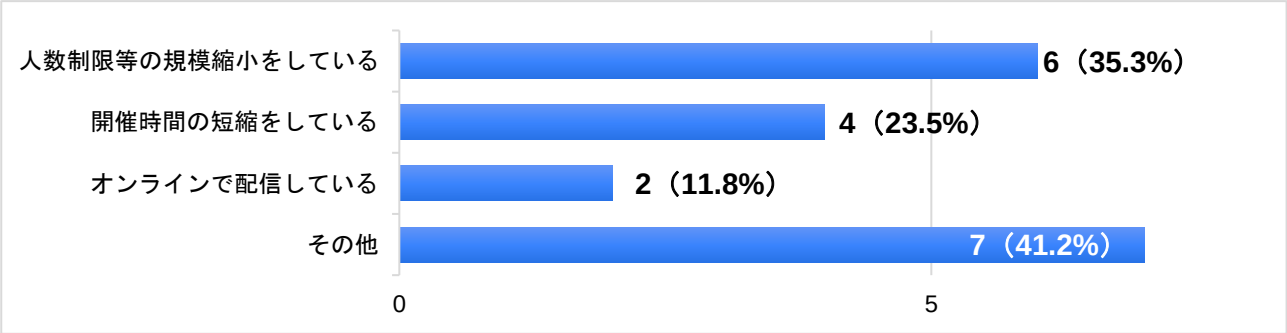


その他（９件）
・必ずマスクを檀家とお互いにつけるようにしている。
・マスク着用
・コロナ対策がやや緩和された時季から、新しく研修会を始めた。
・一方的な配信ではなく、Zoom で双方向でコミュニケーションを取りながら行っている。
・ほとんど戻していますが、プラスα、zoom もあるという感じです。
・寺院からの発信はしない。依頼にのみ対応しています。
・会場を今までは御内仏の間で勤めていたが、感染対策のため本堂で勤めるようにした。
・唱えるお経やご詠歌を減らす
・回数を減らしている

（14）2023 年 12 月現在、毎年行う落語会やコンサートなどのイベントをどのようにおこなっていますか。

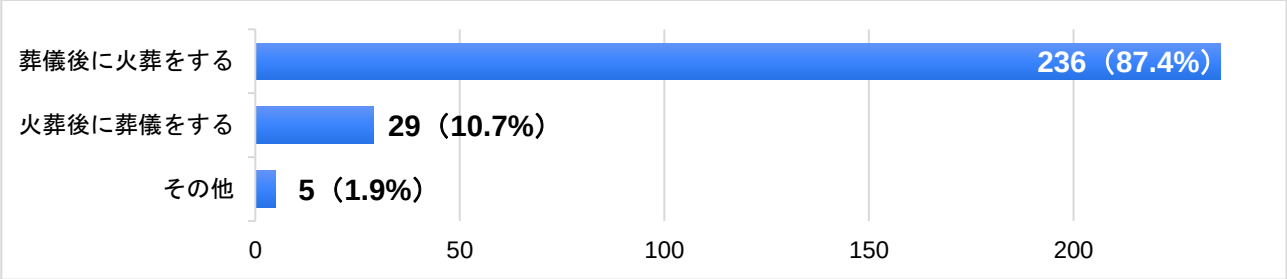


（15）（14）で「形を変えておこなっている」を選択した方にお尋ねします。具体的にどのようにおこなっていますか。（複数回答可）



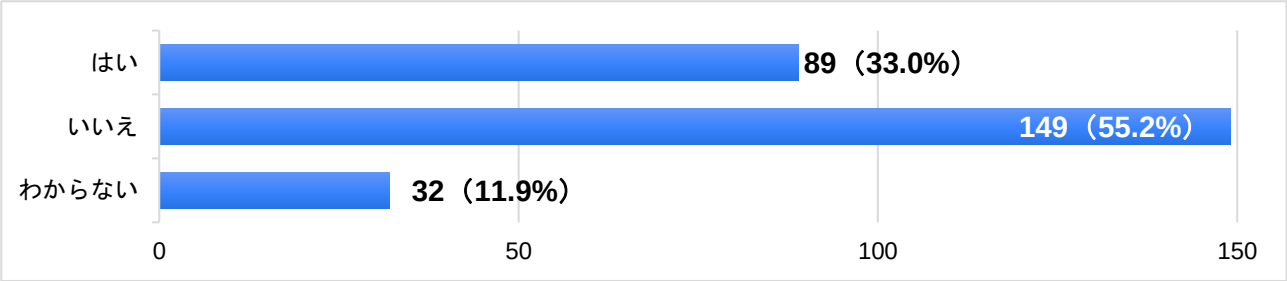
その他（７件）
・コロナ禍の間にはじめた。法要とは違い、地域向けなので来たいと思う人が来れば良いというスタンスで続けた
・演者との距離の確保
・開催の回数を減らしている。住職の年齢等も考慮して。
・開催できていないものと新規に受けて開催したものがある。
・以前は地域の人も入れたが人数を調節するため法要に参加した檀信徒のみにさせてもらった
・以前より盛大かつ開催回数増えた
・規模を拡大しつつ有る

（16）所属する寺院での一般的な葬儀の流れについて、あてはまるものを選んでください。

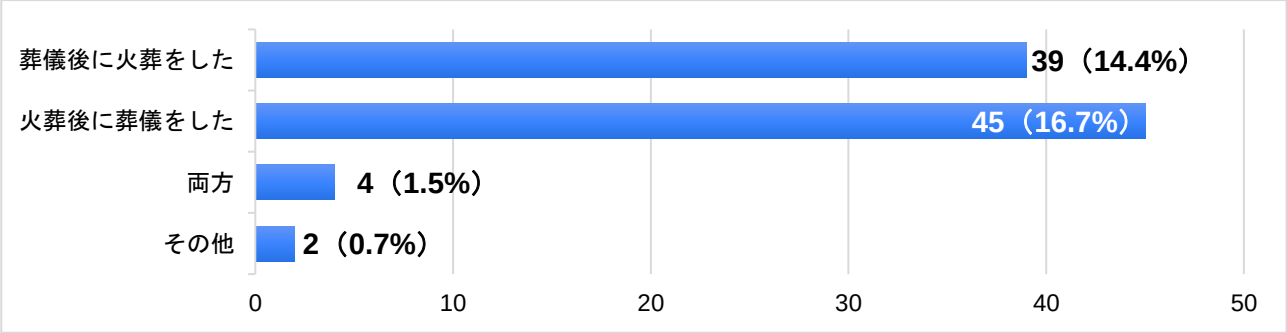


その他（５件）
・どちらも有り
・どちらもあり得る地域なので、ご葬家様の都合と寺の予定ですり合わせを行い、順番を決めている。
・上記の２件ともあり得るが葬儀後に火葬することが多い。寺院で葬儀を行う場合は火葬後に葬儀を行っており 10 対１ぐらいの割合である。
・どちらもある
・古くからの方は火葬後に葬儀、新しい方は葬儀後に火葬。

（17）新型コロナウイルスが５類に移行してから（2023 年５月８日以降）、新型コロナウイルス感染症でお亡くなりになった方の葬儀式（戒名・法号授与、引導作法など）をつとめましたか。



（18）（17）で「はい」を選択された方にお尋ねします。 新型コロナウイルス感染症でお亡くなりになった方の葬儀と火葬はどのような流れでおこないましたか。（複数回答可）

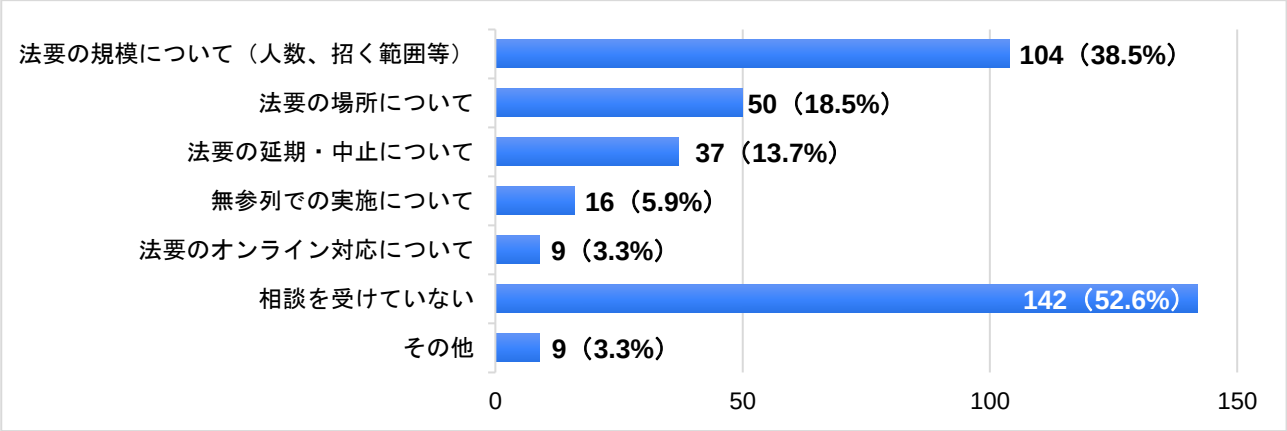


その他（２件）

・2023 年１月以前は、火葬時間にあわせてお寺で読経。火葬後のお骨はお寺で安置。供養は僧侶のみ。親族が揃う忌明け法要で改めて葬儀式の形で実施。１月以降は通常の葬儀を親族と共に行い火葬。

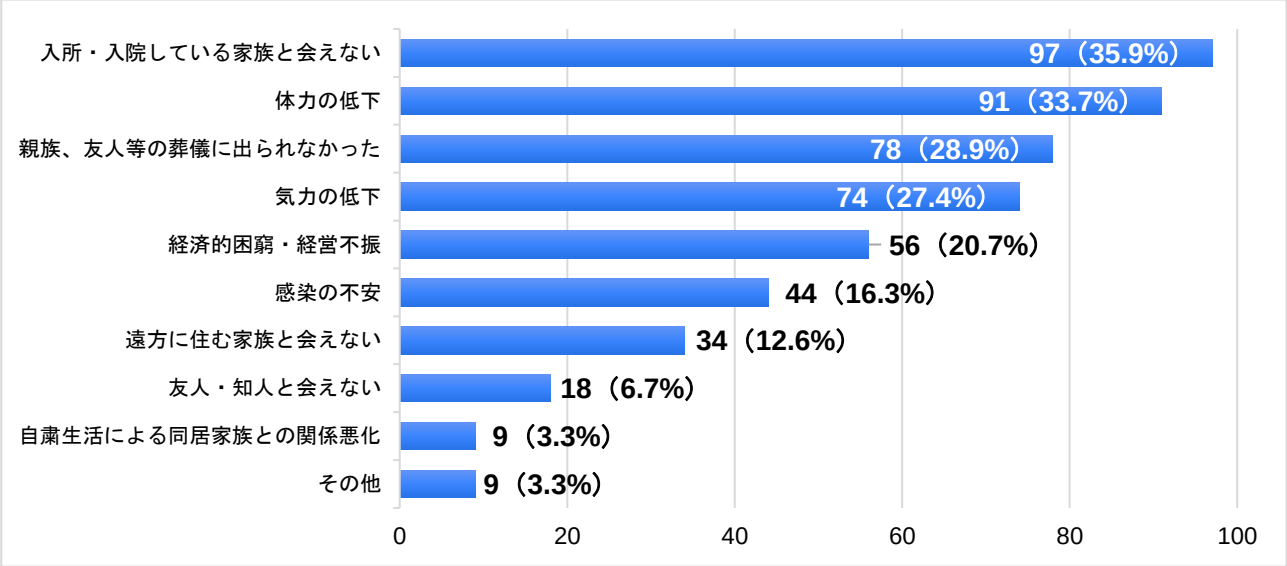
・初期は火葬後であったが、その後葬儀後に火葬をするようになった。

（19） 新型コロナウイルスが５類に移行してから（2023 年５月８日以降） 、檀家・門徒・信徒の方から、年回法要についてどのような相談を受けていますか。（複数回答可）



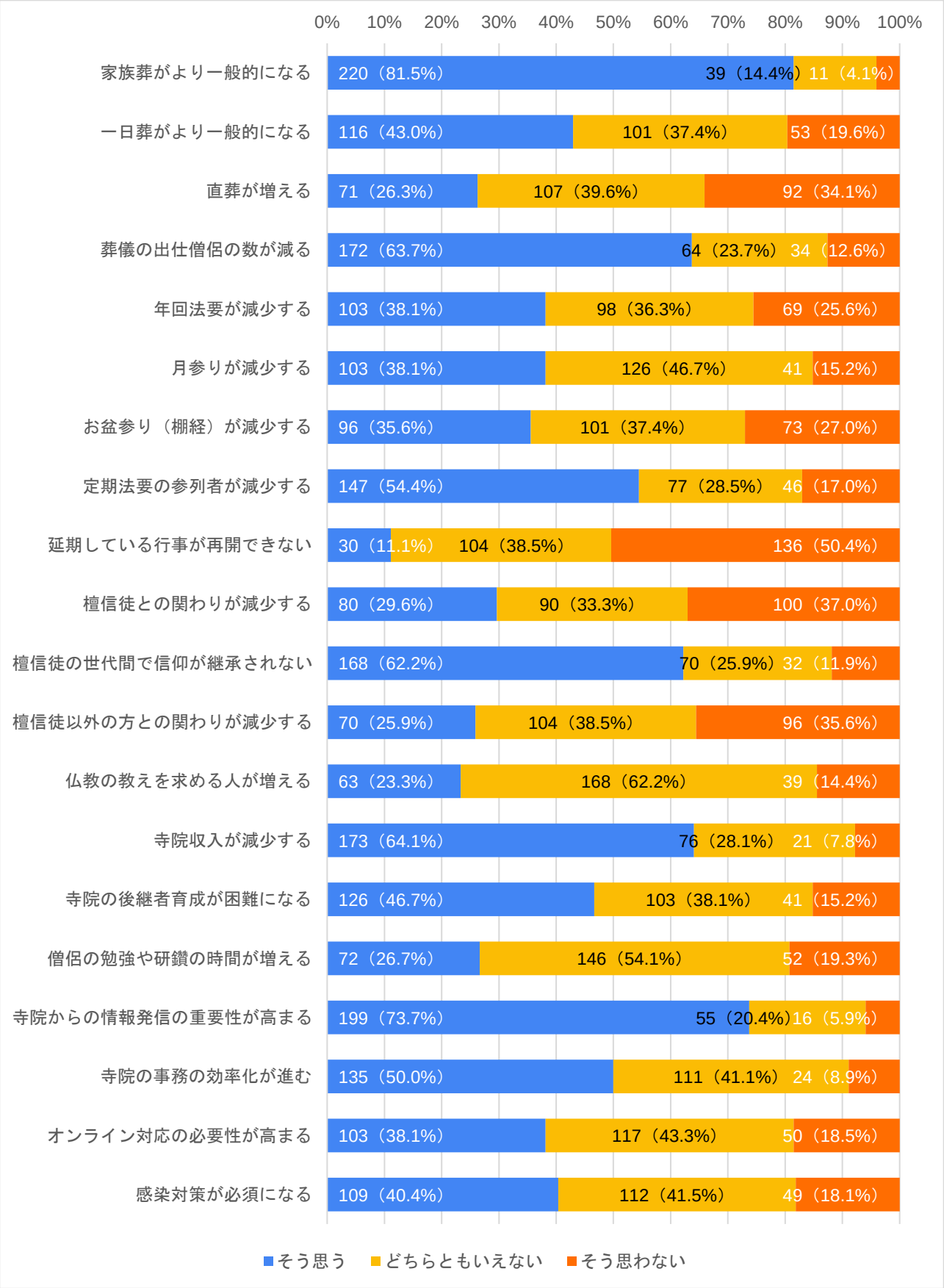
その他（９件）
・お寺を使っての会食の可否。
・会食に関して
・法事後の食事は周りの人はしているのか
・どのくらい会食を行なっているケースがあるかについて
・通常に戻ってきた。コロナ禍でできなかったので遅れて法要を勤めている
・コロナが要因ではなく、足腰が具合悪く法要に伺えないため無参列にてつとめることが増えている
・以前と比べ、ご家庭の事情や都合などを気軽に相談くださる方が増えています
・一日葬でもいいですか、一日葬でお願いします問題
・５類に移行したことでの変化なし。御斎は増えたかも。

（20） 新型コロナウイルスが５類に移行してから（2023 年５月８日以降）、 檀家・門徒・信徒の方から、生活上のどのような相談を受けていますか。（複数回答可）

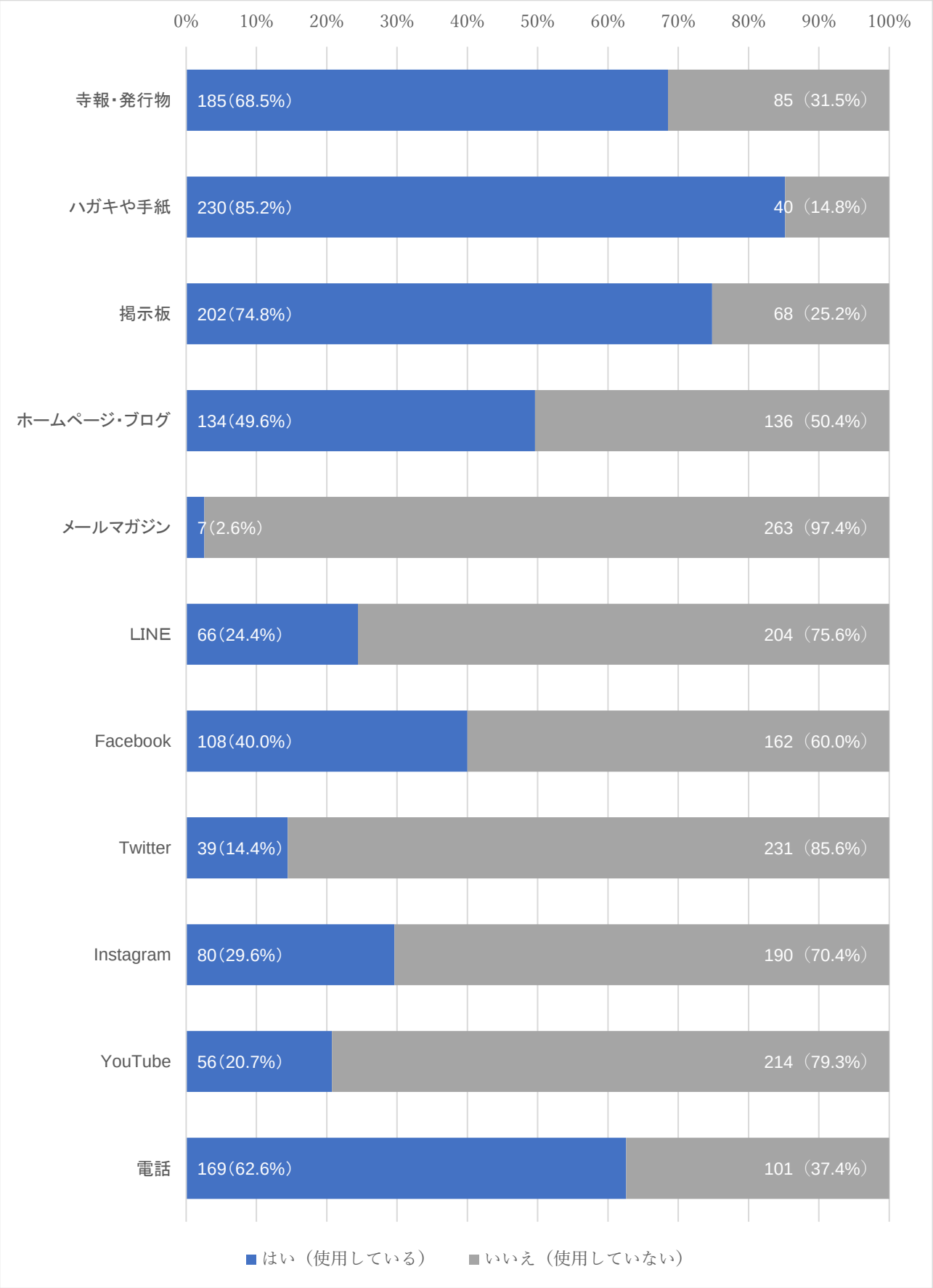


その他（９件）
・インフルエンザ等コロナ以外の風邪がコロナ云々の時よりも近隣で何度も大流行していてたいへん。
・施設の人が臨終に近い家族に沢山会わせてくれるようになった、遠方からの改葬の段取りが進まない
・痴呆が進んだ
・家族が認知症になったなど病気の相談
・家族の疎遠等による外出（買い物・病院・旅行等）困難や回数減少、インターネット使用困難による不便
・精神状態が良く無いことを兄弟が認めてくれず孤立している長女の行く末に悩む８０代の母親の深い憂い
・社会の変化。慣習・行事等の変化。
・コロナなどのワクチン接種にたいする不安・相談
・コロナの話題は消えました

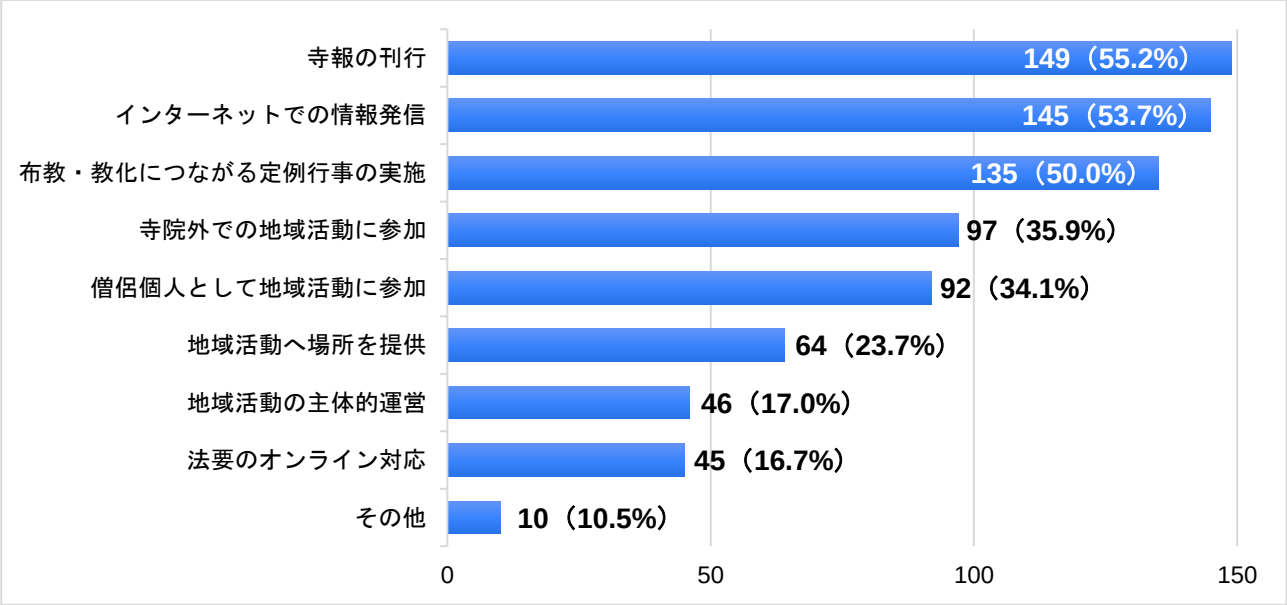
（21）コロナ禍を経た現在、今後の法務や寺院運営に関する見通しについてどう考えますか。



（22）寺院からの情報発信の手段として以下のものを使用していますか。



（23）2023 年 12 月現在、寺院として行っていることはありますか。（複数回答可）



その他（10 件）

・悩み相談
・他県の寺院を兼務している
・檀家以外の公民館・老人会・グループなど、団体や個人で来られる方が年間千人以上います。皆さんが法話や体験を希望され、食事もします。
・防災拠点作り　警察・消防・自衛隊・役所との連携強化
・自死者追悼法要企画運営
・おてらおやつクラブに協力
・終活支援団体を運営しています。
・読み聞かせボランティア
・寺庭として傾聴ボランティアに参加
・幼稚園　児童仏教教化

（24）ご意見やご感想等ございましたら、自由にお書きください。
※御礼等の記述は省略させていただきました。個人が特定できるような文言を一部修正しています。

・マスクをしていると喘息になりづらかったり、風邪もひきづらいので、コロナ禍が終わっても法要中にマスクをしていたい。
・感染症を含め社会の変化には臨機応変に対応するべき部分もあるが、価値観の乱立する現代では世相に対応する事ばかりを問題とせず、一過性のものに振り回されず、近づき過ぎない、取り入れ過ぎない事も大切であると思う
・葬儀に関しては、そもそも自分の両親が亡くなった時に自分が施主をすると考えても人生で２回しか施主をしない。女性であれば施主をすることもないかもしれません。よく言われるのが、なかなか慣れないことなのでと言われますが、慣れるものでもないですし、おそらく何をしたらいいのか何がわからないのかがわからないという状況なのであろうと思い寄り添っております。このコロナで葬儀の様式も変わってきており、これから施主をすることになる方としては、いまの葬儀の流れなど、刻々と変わっていきますが、SNS などで発信していく必要もあるかと思います。日頃から葬儀の流れの主流を知っておくのも、いざとなったときの備えとして知っておくということが当たり前な社会をつくっていけばいいかと思います。また、いつでも知ることができる、目に入ってくる環境もつくっていくといいかと思います。
・社会全体がなるべくお金を使わない方向に向いている中、コロナ禍で法事をしなかった事をきっかけに今後も法事をせず、命日に墓参のみで済ませる檀家さんが増えました。お寺に納める布施は経費削減で一番最初に削られてしまう、という認識です。
但しそんな中でも寺を気遣ってくださる方々もあり、そのような方達には感謝しています。
・コロナ感染症に関係なく、今後の寺院運営が困難になってくると危機感を持っています。
地域との関わりの中で、お寺だからできること、お寺でもできる事を模索しながら寺院存続のために精進していきたいと思います。
元気がもらえる地域寺院の役割は大切だと思います(^-^)
・コロナ禍を経て、これまで親戚の目を気にして義務感で行っていた葬儀や法要を行う人々が減り、家族や本当に親しい親族のみで葬儀や法要を営まれているお檀家さんが増えたような感じがする。
寺院の収入という面では、法要数の減少は厳しい局面を迎えるかもしれないが、見栄や形式に捉われない人々が残ったとも言える。寺院側も、これまで努力せずとも慣習的に葬儀や法要を行なってくれていた人々がいなくなり、真の実力を試される局面に入ってきていると思う。
・地方の小寺院は兼務、兼職しながら生活している
・墓じまいの相談が増えた。
・お布施を社会還元するためにも、日本の寺院が淘汰され１/３以下になることを望んでいます。今の寺院はほぼ、お布施の社会還元をしていない。エセ寺院ばかりであるから。まああと１０年もすれば、自然にそうなると思います。不要な寺院が何と多い事か。社会の損失でしかない。
・今後、これから先人口減少により亡くなる方々が少なくなってきた時の寺院運営か心配です。
・コロナウイルスも５類に移行し、周囲の活動も活性化している。一方で以前と以後の変化については明確にあり、うまることはなかなか容易ではないだろう。一時期はマスクも外し始めた方々も、この

１１月ころになってからまたマスクを被着される方が増えている。近隣の方々の、インフルエンザや胃腸風邪などの感染状証拠ではないかともう証拠ではないかとおもう。またコロナのみならず、生命をおびやかす存在が出てきたら、初年度の警戒感に、パニックなくスムーズに移行するだろうと思う。葬儀に関しては、コロナの状況を経て、人として重要であると見る流れと、「処理」という短絡化の流れに二分化していると思う。前者の心持ちをしている方々は、お寺にも足を踏み入れ、以前の檀家制度とは違う流れを生み出そうとしている印象をうける。ただ、「処理」を希望する流れは本当にそれほど多いのかと疑心暗鬼になっている。今年になってからも、安価な葬儀を希望した方が、申し込んだところ、葬儀ではなく「処理」である実態に驚き、契約を解除しようとしたところできず、事後悔やみながら面識のないお寺にお願いに来るというケースを経験した。寺にいる者としては、それぞれを真摯に受け止めるだけである。今後は、やはり情報発信が必要であるとは思うが、ネットなどは情報が溢れすぎており、末寺の発信などは埋もれてしまうとあきらめてもいる。

・以前から地域の住職の会議があり、協力体制が構築されていたが、コロナ禍以後、住職間の温度差が生まれ、別々の方向を向き始めたように感じる。

・家族葬の言葉を僧侶側が使用することに違和感が多分に在る。対義語に檀家葬なら未だしも、一般の御葬儀は全て家族葬と考える。葬儀社の言葉が先に立ち、何か違う良い言葉は無いものか…。
又寺院運営の見通しですが、先端の媒体を利用するも良いが、僧侶側が元に立ち返る事(対面を大切にし、直に足を運ぶ事を惜しまない)も必要だと感じる。

・コロナの直接的な影響は減ってきたと感じていますが、この３年間で進んだ簡素化や法要に幅広く声をかけない（孫は連れてこない)、といった影響が今後どのように出てくるか懸念されます。
また今後の変化がコロナに起因するものなのか、コロナのせいにしているだけで実はお寺や僧侶そのものの問題であるのか、区別はつきにくいと思いますが、都合の良い解釈で見誤ることは、さらにその先の寺院運営の停滞を招くのではないかと思っております。
継続的に行われている貴調査の結果は大変興味深く、また参考とさせていただきたく思っております。

・コロナの影響で葬儀･法要や寺や僧侶の必要性を疑問視する檀家・信者が増えたと察する。
その危機感の実感を寺や僧侶は早々に知るべきと感じています。

・生成ＡＩに取り組みたい。

・これから益々地域間の違いが出てくるようになると思っています。自分達の地域のやり方というものが楽な方向で形作られているような気がします。その方向性を逆にしようとしても、テレビやマスコミからは自由、簡単、必要ない等の破壊的な情報が全てにおいて多く、それを僧侶としてこの地域のあるべき姿に戻そうとするのは大変で、全国的に統一されそうな勢いに諦めそうになります。
次の世代が育ちにくいのもその辺から変えていかなければと感じています。

・宗派を超えたネットワークの情報が欲しい。

・経済的な事情もあるが、信仰の継承がなされていない事が目立ってきた。

・これからは、もっと外に出て、社会の様々なことに関わり必要とされる僧侶にならなければならないと思います。
また、大きな伽藍の寺院であれば、人手の問題もあるでしょうが、広く仏教に興味を持ってもらうように解放し受け入れ、地域から必要とされる場となるよう努めても良いのではないかと思うこともあります。

結局は住職次第ではあると思いますが、今後を考えれば、人の為(地域住民や檀信徒)の為にやれることを１つでも始めた方が、仏教界にとっては良いのではないかと思います。

・コロナの影響に問題にかかわらず僧侶の資質と志が問われていると思います。地域の方やお檀家様同士がつながっていて、お寺や僧侶の情報交換を頻繁に行っている事実は否めないと感じます。それゆえに僧侶としての矜持が大切だと考える次第です。

・コロナによって縮小した規模（寺院経営・参列者・法事等）はある程度回復したが、それでも以前に比べて１割程度は減った。今後も縮小枠は固定され、完全に回復することはないような気がする。檀信徒の固定枠は減ったが、新規の浮遊層はむしろ拡大している印象で、実際に巡礼参拝による賽銭、さらにお守りやお札の購入・申し込みは増えている。

・思っていた以上に、日常(コロナ禍前の法要の式次第、慣習)が戻りつつあるように感じます。しかしながら、このコロナ禍の中で絶たれてしまった檀信徒との関わりも多く、コロナ禍のなかで家長が亡くなり、スムーズな信仰継承が難しかった檀信徒の方もいらっしゃいます。そのような綻びを直すためには、これまで以上の努力が必要ではないかという危機感も持ち合わせております。

・しばらくは、今後の動向を注視する必要があると思います。

・寺院が NPO 法人を開設することで、社会の連携を深め、地域社会における寺院の役割をより広範かつ有益なものにしていく。

・浄土真宗本願寺派寺院住職です。僧侶養成の役目に携わっています。何なりとご相談ください。

・形式的に行っている寺院間の集まりが再開することで、コロナ禍で始めた冊子作成や研鑽の時間が無くなるのが不安です。近隣の年輩住職方は「以前の形に戻すことに頑なにこだわる方」と、「楽だから戻さなくていいと考える方」の二つに分かれていて、コロナ禍で新たな工夫を始めた方は一人も知りません。

・コロナの影響なのか、少子高齢化や都市圏への一極集中・核家族化の影響なのか回答しながら考えてしまった。

コロナは変化の後押しこそしただろうが、今起きている課題や変化の根本問題ではなくなってきたように思う。

これから短期的には葬儀収入や回忌法要での収入が上昇するがその後は減少の一途をたどるような気がしている。

親族集団の紐帯が弱まりつつある今（もしくは人口減少による親族集団の消滅）個人をターゲットにしたときにどのような祭祀のあり方がよいのか、模索していかなければいけないという思いを新たにした。

・お墓じまいのご相談が増えてまいりました。心や何やらのお話以前に御家断絶のご家庭が多過ぎることに驚いております。

・22 YouTube やってないけど、クリックできないです

・毎回お疲れ様です。問 21 についてなのですが、自坊のことなのか、宗派のことなのか迷う設問が多かったです。(「寺によるとしか」と思いました。)

今後は僧侶個人のカリスマやブランド力の強化、寺院同士の協力によるスケールメリットやバックオフィスの DX 化による無駄な時間の削減など、やれることや伸び代はいくらでもあると思います。子供世代に「お坊さんになりたいな」と思ってもらえる僧侶を目指して私も頑張ります。

・コロナウイルスの行動制限が今年５月に解除されて以降、一気に行事等が復活し、急に忙しくなった。
このアンケートでも回答したが、毎年３月に開催している佛教講演会と４月に開催しているお花まつりは中止にしたが、５月に開催している定例法要と雅楽演奏会はコロナ前と同じ形で行った。
ただ、今後の流れとしては、小生が住む地域では、このコロナ禍で葬儀の規模が縮小（役僧の人数を減らした形での喪主の希望）し、会葬者の参列が葬儀中の同席・焼香というものが、葬儀の１時間前から会葬⇒焼香⇒帰宅と、葬儀中の同席ではなく、告別式と葬儀式を分ける形へと変化しつつあり、コロナ明けもコロナ前の状況に戻らず、そのまま続いている。
これが戻るのか、このまま続いていくのかということで考えるならば、このまま続くことが予想される。
このコロナ禍により、お檀家さんの中には失業したり、収入減少した方もおり、そこにインフレ・物価高が続き、金銭的に余裕のある方が減っている。
葬儀と年回法要の縮小・簡略化が進み、寺院の収入も減ってくることが予想される。
そこに、2040 年までは出生数よりも亡くなる方の数が多くなる自然減少が進み、多死社会を迎えるといわれているが、お檀家のおじいさん、おばあさんがお亡くなりになる度に、お檀家さんの数が減る状況になりつつあり、今後 20 年余りの間に、寺院を取り巻く環境変化が急激に進むことが予想される。
これまでは、人口増加をもとに、お檀家さんの数が多ければ、それに伴い寺院の収入もあり、寺院の護持ができていたが、人口減少時代を迎えると、歯車が逆回転し、お檀家さんの数の減少⇒寺院の収入減少⇒寺院の護持が難しくなる⇒住職や寺族の生活が厳しくなる⇒空き寺の増加という悪循環が起こることが予測される。
それにどう対応するのか。
団塊の世代が満 75 歳以上、そのジュニア世代が満 50 歳以上となる今年は、今後、佛教・寺院が生き残るために重要な節目となる。
僧侶が真剣に布教し、それぞれの教えをいかに人々に伝えるか。
また、寺院の護持のためにいかに知恵をしぼり、創意工夫していくか。
それらがとても大切になってくる。
このアンケートを通じて、全国の寺院・僧侶の現在の姿が分かるので、それをもとに、お互いに情報共有し、「寺院消滅」を防ぐために、未来に向けて考え、備えていきたい。合掌

・問 21 について、いくつかの設問は、コロナ禍ではなく、地方の過疎化、少子高齢化、核家族化等の影響による変化と思う。また、統一教会の問題然り、とくに 2023 年は池田大作氏、大川隆法氏らの死去が報じられた。新宗教等が社会で取り上げられる際、寺院活動にも多少の影響があるかもしれない。（宗教に対して興味関心をむけるきっかけになる、宗教離れを加速させる等）

・いつの時代も外部環境の変化はあるので、そこに適応しつつできることをしていきたいです。家族葬になった、回送者の人数が減ったのであれば、お寺で葬儀がしやすくなった。本来の葬儀について布教できるかもしれない。オリジナルの葬儀であったり、悲しむ時間の共有だったりを丁寧にする事で仏教への認識が変わってくると思います。
ZOOM 会議や講義の受講も以前とは考えられない状況です。檀信徒の方とも共に学べる機会となるかもしれませんね。

・新型コロナウイルス感染拡大の前後の変化については、これまでの葬送儀礼や佛事に対する疑問や宗教者の対する不信感が、新型コロナウイルス感染症の感染拡大をきっかけに表に出てきただけの話であり、新型コロナウイルス感染症そのものや感染対策等々に問題があるのではなく、宗教者自身のあり方や態度について、しっかり見つめ直し、反省する必要もあるのではないかと思っています。
新型コロナウイルス感染症の感染拡大は、葬送儀礼や佛事に対する疑問や宗教者の対する不信感を表現するチャンスだったのかもしれません。
・金銭を問題としないのならば、以前より活動できる（したら良い）場所は増えているように感じます。
葬儀や寺院行事等の大きな催事よりも日常の、隙間、細かなところ、目立たないところ。寺院から離れたところで。寺院活動でなく個人の活動として。
・５類になり、コロナにある種の慣れが出てきてる。
思ったよりも葬儀等のオンライン化が進まなかった。むしろ進んだのは、墓じまいやそれに関する相談などが増えたように感じる。社会にそのような情報が一般化したのもあるだろうが、コロナに影響で、病気や死といったものがより身近に認識されたことにより自分の死後を考える時間や機会がふえたのではないだろうか、と考えている。
住職の意見を踏まえねばならないが、コロナ前に戻りつつある部分もあるが、戻れない、もしくは戻さなくても良い部分もあると個人的には感じるところがある。むしろこれを機会に寺院運営の効率化を図りたい
・葬儀の縮小はコロナの影響も有るだろうが、それ以前からその傾向はあった。
・以前の形態に戻りつつも、まだまだ集まりにくい感覚になる。
・後継者の減少による墓じまいや寺離れに、いろいろな手立てをしているが難しく解決策が不明である。
コロナでそれがますます顕著になった。これも世の流れなのだろうか？
・自坊の外で感じることです。コロナ禍以降、職場や町内などの関係で葬儀があっても弔問される方が減っているように思います。弔問という習慣が希薄になってきているのではないかと危惧します。
・コロナ禍から生まれたご縁もありました。
・感染リスクのある飲食に関わること以外、コロナ禍で見えなくなっていた人口減少や超高齢化や少子化の影響がより顕在化してきていると思います。
・出仕僧侶ですが当寺は過去２０年以上住職一人です。又、地元の他宗寺院では住職一人が基本、又は寺族（奥様又は息子）との二人が基本です。
・コロナ禍を経て、継承すべきこと、改善すべきこと等が明確になってきました。
これからも常に時代のニーズを見つつ伝統（伝灯）を守っていきたいと思います。
・コロナをきっかけとして「月参りを休んで下さい」と言われていたご門徒さまが、「今月からお願いします」と言われていたのに、すっかり忘れてしまっていたことがありました。
こちらもコロナボケが漂っています。ご門徒さまのご縁が徐々に薄くなっていくことは否めません。
・たいへん貴重な調査とデータの積み重ねです。これからもよろしくお願いいたします。
・継続的な調査は大事だと思います。ご対応いただきありがとうございます。今後ともよろしくお願いいたします。
・人口減少(高齢化)とコロナが相乗効果となり…檀家さん(護寺会)自体のお寺に対する「熱意」や「使命感」が薄くなってきた。「我が寺なんだから！」という昔ながらの意識が徐々に薄くなり、「出来な

いなら出来ないなりに行事も予算も縮小していけば？」という考えが出始めてきた。「寺は残して欲しいけど…お布施やご寄付という協力(寺院運営)は中々難しい」と言われた事もある。寺院も会社と同じで…収支があわなければ運営は難しいのが当然の本音。しかし、檀家さんには寺院運営という現実を中々理解してもらえない。「寺は潰れる事はない」と本気で思っている様子。昔…「夜逃げする住職」と言う話を聞いたが、現実味がある話。跡継ぎとして息子がいても「息子を跡継ぎに…」とは中々いかない現状。寺院(宗教法人)の解散は、設立より難しいものだと改めて考えさせられる。

・コロナよりも日頃から関係性が深いか浅いかで寺と檀家様の繋がりも違うと思います。傾聴やグリーフケア等デリケートな内容の話では特に関係性はとても大切と感じています。

・コロナ感染以前の状況を実感しておりませんが、一緒に働いている僧侶の方々のお話ですと、ほぼコロナ前の状況とは言うものの、ご遺族の高齢化もあり、会葬者が減ったり、会食の人数の減少、御朱印は書き置きのままで続くのではないかということです。
一方で、コロナ感染でリアルな葬儀、法要が減った反動現象として、回忌法要が 親族が集まる大切な機会として見直されて欲しいと思っています。

・これをして何か意味ありますか？誰も助けてくれませんね。

・コロナ蔓延中には仕方なく１日葬は受付たが、だからといってこれからも１日葬を受け入れることはありません。うちのお寺はしてはいないです。
ですが、色々な方と話していると、「明日は１日葬だ、ウチは１日葬受け入れてるよ」などと言った発言を多く聞きます。お寺側がしっかりと教義、意味を改めて知っていただき、ちゃんとお通夜、葬儀、初七日…と仏事を行なってほしいです。

・コロナを契機に、新しい運営方法、情報発信などの努力のやり方を考える機会になった。御朱印の郵送対応を始めたことにより、檀家以外の方とのやりとりが増えて、神仏との新しいご縁の結び方、法を説くあり方について、こちらも工夫ができるようになった。お盆の棚行は来て欲しい人は多いが、月参りや普段の付き合いは減少したままに感じる。お寺との密な関係は取りたくないが、ゆるやかに関係は続けたいと思われているように感じる。全体的には、檀家減少の危機感よりも、仏法をもっと身近にしないといけないという使命感を強く感じている。
継続的な調査研究、誠にご苦労さまです。ますますの研究の発展と、仏教界の活性化、それにより地域の皆さま、あるいはまだ仏縁のない方にも、みほとけの慈しみと智慧が届きますように祈念いたします。

・コロナ禍をひとまず乗り切り、寺院をとりまく状況は比較的安定してきたように思える。しかし一日葬・家族葬といった「葬儀簡略化」の波は、今後もしばらく続くと予想する。